



量質転化の法則

「量質転化の法則」という法則を聞いたことがありますか。文字通り「量をこなすにつれて、質が上がっていく。質が上がれば、量をこなせるようになっていく。」という話なのですが……。

たとえば、自転車に乗れるようになったときのことを思い出してみてください。初めて自転車に乗ろうと練習を始めたときは、ふらふらしてすぐ転んでしまい、ほとんど前に進めなかったはず。なので、幼児には補助輪を付けた自転車を与えます。ところが、補助輪をはずして自転車に乗れるようになるには、補助輪をはずした自転車で、ふらふらして転ぶ（転びそうになる）を何度も繰り返しながら練習を続け、そうしているうち（量をこなす）に、ある日（ある瞬間に）、転ばずに自転車が何メートルか前に進んで（質が変わる）、驚きと喜びを感じたはず。です。

では、どのくらいの量をこなせば質が変わるのか。

人によっても、取り組むことによっても違いがあるので、誰にもわかりません。いや、何かを成し遂げたいと思ったら、質が変化するまで量をこなさなければ意味がないと言えるでしょう。先の自転車の例も、何メートルか進めるという変化が起きる前に、「こんなに練習しても乗れないのだから、自分は自転車に乗る能力がないんだ！」とあきらめてしまったら、自転車に乗れるようになれなかったでしょう。

自転車はほんの一例ですが、勉強についても同様のことが言えるのです。中2のとき、歴史が得意でなかった私は、2学期の期末テストの勉強で、これまでは「書いて覚える」としていた勉強法を、ページ数の多さから「全く書かずに、教科書をひたすら早口でつかえなくて読めるまで読みこなす」という勉強法を思いつき、やってみました。初めは、1行読む毎につかえていたのに、2回目、3回目と回を経る毎につかえるところは減っていき、早口でスムーズに教科書を読めるようになっていきました。勉強中はそれだけです。しかし、その結果は意外にも、得点で30点以上のアップにつながったのです。

全員が満点を目指して手にすることは簡単ではないでしょうが、現状以上の成果を手にすることは、「量質転化の法則で必ずできるはず」と思います。変化が起きていないのは、起きるほどの量をこなせていないと言えるでしょう（勉強について言えば、「覚えよう」「理解しよう」とする「やり直し」なども、量に含めて考えることが必要です。ただし、量を単に『時間量』のように考えて、「○時間も増やしたから…」と考えるのは間違いです。）。そして、質が変化していくことで、学習の効率も上がり、単位時間でこなす量も増える。すなわち、量が質を変え、変化した質が量を増やすので、さらに質が変わる、という具合です。

さて、量をこなしているのになかなか変化が起きなかったとしても、あきらめてはいけません。間違いなく、変化するポイントに近づき、そして成長しているのですから。あきらめる前に、「あと一歩…」「もう少し…」と考えると、『成長のための努力』を続けていきましょう。